

ではないかと思えます。

木屋にも揚水機の設置工事がまもなく完成という時期に爆弾が落とされました。

淀川の水を取り入れる揚水機を設置するために昭和14年頃から計画されていたもので、17年、18年と早魃続きで工事が急がれていました。

九個荘村からは工事の手伝いに行っていました、仁和寺からも何人か手伝いに行きました。

私は学校を卒業した年に、もっこ担ぎをしました。

完成に近付きつつあった20年6月15日に爆弾が投下され、揚水機は破壊されてしまいました。

また、神田に爆弾が落ちた時は、家が揺れるほどの衝撃でした。

たぶん1トン爆弾だと思いますが、大きな穴があいていました。

淀川堤防筋にも爆弾が落ち、堤防決壊も考えて水防団の人たちが穴埋めに行きました。

私は昭和3年生まれで、中西金属に勤めていました。

中西金属へは挺身隊の女学生が来ていました。

その女学生のために、淀川に通じる道の下を流れる川の兩岸に筏のように板を並べた防空壕や仁和寺神社にも防空壕が作られていました。

ところが、大阪市内から来ている女学生が多く、夜に空襲があると翌日出勤する女学生は半数にまで減っていたこともありました。

天満にあった中西金属本社の防空壕に入っていた女学生が、蒸し焼きになるという悲惨なこともありました。

空襲警報が鳴ると、会社の青年学校の生徒がメガフォンを持って、工場内を1棟ずつ「退避せよ」と伝令を出しながら回っていました。

本当に仕事どころではなかったです。

会社で作ったベアリングは牛車で本社まで運んでいましたが、それは1日がかりの仕事でした。

家には防空壕が掘ってありましたが、私は入ったことはなく、年寄りらが入っていました。

空心町に空襲があった日は見に行きました。

大日や八雲の辺りも東洋紡績の工場があったので、爆撃にあったと聞いております。

私はB29が淀川を上がってきて、編隊を崩さずに生駒山を越えていくのを目にし